

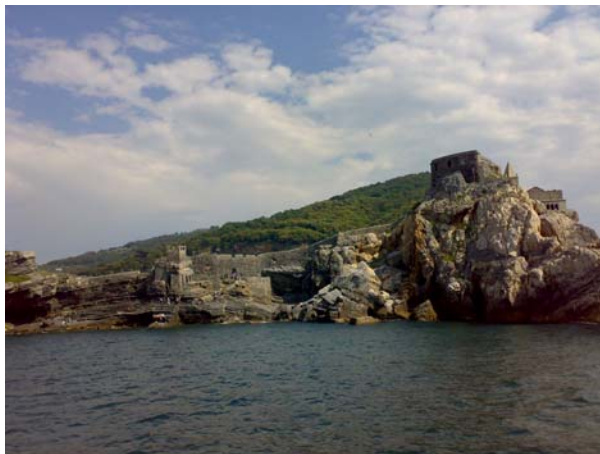
## チンクエ・テッレ

1泊で、1987年に世界遺産に登録されたポルト・ヴェネーレ、チンクエ・テッレと小島群を観光してきました。ポルト・ヴェネーレだけは2回目ですが、何度でも見たくなるようなすばらしいところでしたのでもう一度行けることを楽しみにしていました。小島郡巡りはボートツアー、チンクエ・テッレも徒歩、列車、観光船をフルに使って、世界遺産をたっぷり味わい、更にお勧めのスローフード・レストランで最高のシーフード料理を味わって200%充実した旅となりました。

土曜日は、早起きをしてラ・スペツィアに10時に到着です。ラ・スペツィアからは路線バス（片道1.45ユーロで30分）でポルト・ヴェネーレに11時に到着しました。前回と同じ快晴の天気を迎えてくれました。この景色は、何度見てもきれいです。自分で勝手に決めているのですが、青い空と海を背景にしたサン・ピエトロ教会は、イタリアで2番目に美しいところです（1番は、オルタ・サンジュリオです）。もちろん、丘の上のお城まで登って、人口4500人の城壁で囲まれた美しいポルト・ヴェネーレの村をくまなく歩き回りましたが、すでに前回報告していますので省きます。



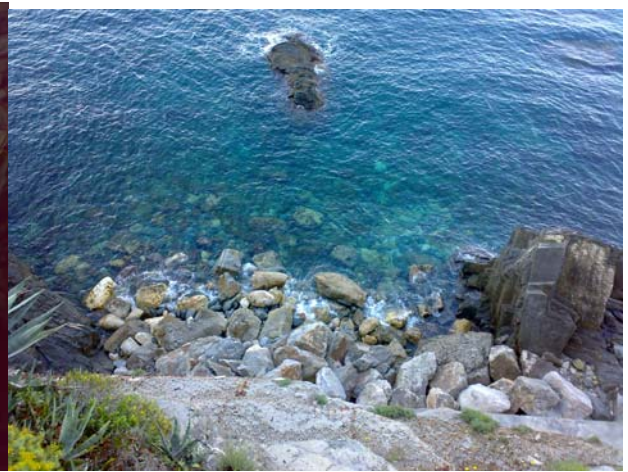
村を一回りし、一休みした後に、遊覧船に乗って、ポルト・ヴェネーレ湾の西側の海に浮かぶ3つの島、パルマリア島、ティーノ島、ティネット島を巡りました。約40分の遊覧（10ユーロ）です。海から見る自然の岸壁、洞窟（ここにも青の洞窟があります）、真っ白なヨットにクルーザー、それに自然の中に埋もれている歴史建築物は、遊覧船の中でシャッター音が途絶えることはありませんでした。一番先端のティネット島の沖には真っ白なマリア様が海の上に立っています（写真を撮り損ねました）。でも、やはり、海からの一番素晴らしい景色は、ポルト・ヴェネーレのサン・ピエトロ教会とお城でした。



宿泊は、ラ・スペツィアに戻り駅前のホテルです。夕食はホテルでジェノヴェーゼ・パスタの美味しい店を紹介してもらいましたが、味は次の日、日曜日のランチに及びませんでした。それでも、良心的な価格で十分に満足いく夕食となりました。日曜日は、ラ・スペツィア駅で、列車、バスと「愛の小道」の入場料（5ユーロ）つきチンクエ・テッレ・パス（8.5ユーロ）を購入し、8時前の列車でリオマッジョーレに行ってチンクエ・テッレ観光の開始です。ホテルで知り合った75歳で一人旅している日本人のご婦人（英語もイタリア語もできないのに堂々と一人旅しているこのご婦人は本当に尊敬に値します）のお勧めで、リオマッジョーレの漁港まで降りて、ここから絵葉書のような村を見上げるベスト・ポイントへ。まだ朝早いこともあり、我々以外に他に観光客もなく、のんびり働く漁師さんが4,5人いるだけの静かで海の匂いであふれている漁港を見せてもらいました。



リオマッジョーレの街をぶらぶらして、いよいよ「愛の小道」に入ります。今更、「愛の小道」の歳ではないので、そちらの面での感動はありませんでしたが、断崖絶壁の自然の景色ときれいな地中海には圧倒されました。海の水が本当にきれいです。マナローラ村までは、きれいに整備された小道が続き、まだ行きかう観光客も少なくハイキング気分が気分爽快です。



マナローラ村は、ちょっと泥臭さの残るリオマッジョーレに比べて多少洗練されていて、漁港から見る村も清潔でとてもきれいです。でも、泥臭いほうが生活感もあり個人的には好みます。



ご婦人のお勧めは、マナローラの次の村、コルネリアまで歩くことでした。75歳のご婦人でも歩いたのですから遠いなどとは言ってられません。こちらの小道は舗装されていない山道で、アップダウンもありちょっとだけ大変です。しかし、周りの景色は、こちらも素晴らしく、ご婦人のお勧めどおりでした。このころから観光客も徐々に増えてきました。コルネリアの駅ではものすごい数の団体客に出くわして駅構内に入るのも大変でした。



コルネリアからは列車で隣のヴェルナツァまで行き、ヴェルナツァの駅から港まではお土産屋とカフェ・レストランが並び、良い匂いが食欲を刺激します。しかし、モンテロッソのレストランに予約をとっているのので、ここは我慢をして港のカフェで、港と街並みを見ながら一休みとしました。ヴェルナツァの港には、遊覧船でこの村に入ってくる観光客があふれていました。この村が観光客に一番人気があるようです。港には古い教会があり、その鐘楼が印象的です。教会前の広場にはカフェとお土産屋が所狭しと並んでいますが、この数の観光客を処理するにはまだまだ不十分です。ヴェルナツァから最後の街であるモンテロッソへは遊覧船に乗りました。海上から見るヴェルナツァ村の景観は、その人気どおりに確かに素晴らしく、ボートが岸を離れるときれいな色の建物、教会の鐘楼、すぐ横にある城がマッチしていてすごく印象的でした。でも、ここまで来ると、もう昔の漁村の面影も匂いも、一部の建物に干してある洗濯物以外は、ほとんど感じません。チンクエ・テッレは、リオマッジョーレから西に向かうほど、観光化の波に飲まれてしまっているようです。これだけの観光客が来るのですからやむをえないのでしょうかね。



モンテロッソの海岸は、もう、観光客で芋洗い状態です。早々に港を出て、お土産屋のひしめく街中を突っ切り、街外れのレストランのお迎え場所まで1直線に進みました。



レストランにTELすると、5分ほどで迎えのバスが来てくれました。レストランは静かな丘の上であり、観光客があふれて喧騒のモンテロッソの港を一望できます。それだけでも満足なのに、ここの料理は最高でした。その上、レストランを経営する家族（5歳の男の子まで愛嬌を振りまいてくれます）のサービスも素晴らしく、こんなレストランが近くにあれば、毎日でも通ってしまいそうです。隣のイタリア人客とも仲良くなり、時間がたつのも忘れてしまい、気がつくと、帰りの予約した列車の時間を1時間以上も過ぎていました。



後ろ髪を引かれながらも、モンテロッソの街まで送ってもらい、夕方になっても数は減らずに、逆に更にも増えた観光客を掻き分けながら、それでもお土産屋をのぞきつつ駅まで歩き、普通列車でジェノヴァに出て、そこからも普通列車でミラノに戻りました。予定時間を3時間もオーバーです。



ポルト・ヴェネーレは2度目でしたが、今回は土曜日ですのでバス乗り場が違います。日曜日には観光客に親切で駅前の道からバスの乗ることが出来ますが、土曜日になると駅からちょっと離れたところになります。ラ・スペツィアの駅を出て、左に進み街の中心広場から南に向かう並木道を5,6分進んだところにあります。わかりにくいので、タバッキでバスのチケット(片道1.45ユーロ)を買うときにバス停を確認してください。バスの本数は30分間隔で日曜日より多少少ないようです。チンクエ・テッレ・パスは、3種類ほどありました。その中のひとつである列車・バスと「愛の小道」の入場券込みパス(8.5ユーロ)は駅の切符売り場で購入できます。「愛の小道」の入場券だけでも、5ユーロですので、8.5ユーロは結構お得です。但し、このパスには遊覧船は含まれていません。従って、ヴェルナツァからモンテロッソまでは遊覧船にりましたが、別料金(3.5ユーロ)でした。ヴェルナツァからモンテロッソは列車でも遊覧船でも一駅しかありません。遊覧船のパスもありますが、それは遊覧船の切符売り場で売っています。1日券が日曜・祝日は24ユーロ(平日は22ユーロ)で片道だけならその半分です。1日券を買って遊覧船だけ利用している観光客も多いようです。今回は遊覧船も列車も、お昼近くから夕方遅くまで観光客で結構混んでいました。静かな漁村を見たいときは、朝早くから行動開始したほうが良いと思います。